

21世紀のまちづくり＝日本再生の総合特区

平成23年3月28日 N S P 都市計画研究会

国家の基本理念（藤原さんメモ）

国家運営の基本理念：偉大なる共生社会の創造－共生とは進化なり－

国家運営のビジョン：21世紀世界初の戦略的低エネルギー社会の建設

国家運営で最も大切にされるもの：健康と持続可能性

具体的戦略：

（1）一人一芸プラスチームワーク：個の花を咲かせよう

老いも若きも個性を生かして生涯現役、都市も地方も個性を生かしてそれぞれ発展。

（2）新しい人生設計

20代は模索、30代は現場、40代は現場のリーダー、50代は経営のリーダー、60代以降は本当にやりたいことに打ち込む第2の人生

（3）少子高齢化時代に競争力のある経済

量から質へ、唯一無二の高付加価値製品の開発と世界への貢献

（4）外交安保以外は徹底的に地方分権

21世紀の新しい地方国家の建設。地方で循環（人・権限・財源・資源）、地産池消。

（5）政府の役割は地域ごとに設計運営

政府の運営は地域の実情と戦略に合わせて

（6）日本の外交方針

ウィン・ウィンのたくましい外交。

（7）政府に対する国民負担

地域ごとに設計。原則は中負担中サービスと新しい公共の活用

（8）教育のこと

未だ国論統一せず。地方、地域ごとにベストと考える教育をそれぞれやってみて、10年後に再検討。

当面の施策

（1）緊急雇用対策としての日本列島の大掃除

（2）国家目標を実現するためのひな型としての総合特区の建設

（3）全国の人、地域、企業を横に結ぶための国民大集会の開催

基本的な認識

①物質文明は極限まで行きついた

極限まで行きついたら、次は選択の時代である。

自らの理念に基づいて、どれを選択するか、どう編集するかが問題。

縄文時代の生活は、環境共生で、神々しい生活だった。

成長志向から、選択の時代へ。そして、物質文明と精神文明の融合と相乗効果を。

②新しい社会の潮流

「世界最適生産・最適調達」の時代から、

「地域・民族ごとの個性化」の時代へ。

「金融と市場原理主義」の時代から、

「雇用が第一」の時代へ。

「生産と消費」の時代から、

「所得と雇用」の時代へ。

「量・即戦力」の時代から、

「質・熟練」の時代へ。

「安価で大量の世界調達」の時代から、

「地域自給と戦略的低エネルギー」の時代へ。

「官と民の対峙」の時代から、

「新しい公共」の時代へ。

③総合特区の狙い

行き過ぎから戻ってやり直す、という思想。

総合特区の基本理念

偉大なる共生社会の創造 ～美しく豊かでモラルある国づくりのひな型～

総合特区のビジョン（夢・達成したいこと・実現したい世界・手に入れたいもの）

LOHAS社会、地産地消、戦略的低エネルギー社会の実現によって日本再生を目指す

人も社会も健康で持続可能性が高く、しかもそれがライフスタイルの中に組み込まれている。平和、経済、資源・食糧・エネルギー、治山治水、心身の健康、歴史文化などあらゆる面で持続可能性が高い社会。その実現のために個別に対処するのではなく、すべてが成り立つライフスタイルを形成する。次の都市計画の基本であるLOHASと地産地消、戦略的低エネルギーで、これまでの日本と上手に融合しつつ、今までにない新しい文化の創造を実現する。

戦略的低エネルギー生活の一つの手本としての「昭和30年代の日本」

豊かでモラルある国＝古い日本と折り合いをつけながら、LOHASの新しい文化、社会を。仏教と神道、欧化政策、加工貿易など、日本は変化し続けてきたが、それでも誇るべき文化やシステムは、日本の風土に、日本人の精神に、習慣に、しっかり残っている。そして、それは世界の憧れとなっている。これが日本の防衛力でもある。

具体的なイメージ

- ①風景・景観・・・「森に浮かぶ国、日本」「自然と戦わず、自然と共にある国、日本」
- ②仕組み・・・LOHASと地産地消、戦略的低エネルギー
- ③暮らしぶり・・・3世代がそれぞれ役割を持ち、家族として、生涯現役で暮らす世の中
- ④働き方・・・熟練形成が重視される社会
(職業によって服装や体格、ライフスタイルが異なり、一見して職業がわかる社会)

選 択

低層低密の分散社会と、高層高密の集中社会の、両方が存在し、人々は選択する。
バーチャルな世界でのやり取りと、土に近いリアルな世界での生活を、人々は選択する。

バリュー（志・価値観・行動規範・信条・信念・ポリシー・大切にしたいこと）

①健康であること。持続可能性が高いこと。

人の衣食住全般、そして自然や地球全体の健康を考え、持続可能性ということに価値を置いて、自分のライフスタイルを再構築。そして、常に美しいか否か、本物か否か、LOHASか否か、自然と共にあるか否か、地産地消か否か、上品か否か、を大切に考える。

②横型リーダーシップ（グレートコラボレーション）、チームワークを基本とすること。

人と人との結びつきを意識し、その想い、自覚と責任感で、多くの人の想いと知恵を融合。一人一人がリーダー。御用達の心。日本再生に携わる喜びを次世代に引き継ぐために努力。公共と子孫のために、血と汗と涙、努力を惜しまない。

③バランス感覚を大切にすること。

考え方・生き方として、バランス感覚（新旧・労使・人と自然、共済、コラボレーション）を大切に。道徳経済合一、モラルのある競争、労使バランス、競争の功罪を踏まえたバランス感覚など。論語や儒教をベースにしたガバナンス、生き方で。

④至誠一貫

社会にとって大切なことは、粘り強く、繰り返し、言い続ける。やり続ける。ぶれない。

⑤天命、使命、楽天

何でも明るく楽しんでやる境地。人それぞれの個性を活かす。前提は、人の嫌がることはしない。そして仁・信を大切に。

※明治政府がどこかに置き忘れてきた理念・初心。過ちを繰り返さぬよう、理念と初心を大切に。

ストラテジー（戦略・具体的に行うこと）

【戦略その1：総合特区をつくる】

山の上から河川を経て海まで、中山間地、都市を一体の総合特区に指定し、実験的に21世紀らしい日本のひな型を創ってみる。こうした総合特区を日本全国の各地域に創り、地域色豊かな21世紀の地域を生み出す。その過程で生まれる高い付加価値を持った技術、仕組み、人材、特産物などが、国内外に普及することで、総合特区のコストを回収する。

また、総合特区を創るために必要な人材、資金、技術、技能、さらには特産物の販売先などは、日本再生のために創設する平成版日本興業銀行が仲介し用意。平成版日本興業銀行は、経営と、技術と、市場の分かる人たちで構成し、実質的に総合特区のメインバンクとなる。

制度・技術・システムづくり

①規制強化と規制緩和を併用した制度改革を

公共性：皆で我慢すると、皆で得をする仕組みが「公共性」。

一国複数制度＝地域らしさを演出するために、地域ごとの制度設計を、現場の発想で。

②技術：LOHASと低エネルギーの技術を結集

個別の技術を統合する（衣食住遊働のすべての場面で。環境技術なども）。中核的戦略としての「戦略的低エネルギー」・・・40年前の街と田舎に戻し、新しい技術と仕組みとビジョンで、日本再生のモデルを実践する。脱原発で、地域で使うエネルギー総量を3分の1、5分の1にし、なお現在より生活の質を向上させる。

国土づくり

③逆・公共事業

日本の風土を復元する逆・公共事業を推進する。不要となった道路、建物、工作物を解体撤去して植林等を行い、日本の良さが引き立つような風土を回復する。特に風光明媚な場所の景観は徹底的に復元する。また、自然と戦わない姿勢を基本とする。

④山林、河川、海、農地も貴重な資源として維持発展させる

治山治水については、無理に守るのではなく、災害の起こりにくいところに居住する。

暮らしづくり

⑤新しい都市と田舎づくり

突破口として、新しいまちを創る＝昭和の時代の景観に戻す。山、中山間地、川、海の、昭和30年代の景観を再現しながら、中身は最新の技術と仕組みで21世紀の都市と田舎を創る。まちを整備すると、それを支える田舎の整備にもつながる。

⑥風土の再発見

地域の風土に合わせて、低エネルギーで快適に暮らすための工夫を（家、住宅地、地域）。暮らしの中に地域性（風土）を組み込み、風土との関連性を作る。自然との共生、歴史との共生、文化・伝統との共生を。

「らしさ」を演出すれば、美しい地域になる、戦略的低エネルギーになる。

（上品なまち＋低エネルギー＝美しいまち）

レトロ・フューチャー（懐古的未来）：懐かしい風景の中に、最先端の技術を埋め込む。

現代の技術で、資源・食糧・エネルギーの多くを、地域で生産する。

交通も家庭も新しい技術を使って、循環可能なエネルギーによって成り立たせる。

産業づくり

⑦産業と生活

地域の特産物を開発し、国内外に販売する。地域の特産物、地場産業を育成する。御用達。唯一無二の高付加価値製品。地域で資源食料の自給率を上げる。これを可能にする技術を開発する。（地域で採れる原料を加工し部品や素材にし、生活を成り立たせる）意図的に体を動かし、熟練度を高める仕事を創出する。第一次産業の復興から始めよう。

【戦略その2：人づくり】

①人材育成

教育も、学校と地域と職場と家庭が一体となっていく。

②人材活用

いかにして自分の能力を社会に活かすか（公益のために、尽くせるか）。民の企業家精神と実業家連携、フロンティアスピリッツ。実務能力の高い人を。大義のために動ける人を（利潤や損得ではない）。

高齢者に権力を与えない → 未来への投資ができない65歳以上は公職追放しよう！

③専門家とまとめ役

プランナーとオーガナイザーとコーディネーター（専門家を使い、日本全体を動かす）。

【戦略その3：具体的な進め方】

①新しい官民の関係：公共の仕事は、新しい公共の実現で、住民が担う分を増やしていく 民主導で、官が協調（コラボレーション）

官民の連携、逆さまのピラミッド、中央と地方の連携。

（地方の人が主役。中小零細企業が主役。支援者としての行政。支援者としての中央）
全国各地の地方から政府機能を再建し、それぞれの新しい国を創る。

東京抜きネットワークで

②新しい中央と地方の関係：バランスある発展

一極集中型・独占（寡占）の否定：特産品・地域開発（住宅・産業）・インフラ
地域の力で（基本は自力で）：必要性を説き、人材を作り、地域にお金を用意させる。

③新しいファンド：平成版日本興業銀行（プロジェクト・ファイナンス）

国家破産しても個人はたくさんのお金を持っているので、よく集めて、よく散ぜよ。
平成版日本興業銀行と並行し、国を通さない新しい銀行としての、寄付の文化を！
明確な未来像を見せて、金を未来に投資させる！そして、小さな政府を！

④新しい試みのエリア：総合特区のエリア

市町村に関係なく、山から海まで、一つの流域単位で。

官僚がその気になればエリアは決まる。国民運動で突き上げ、官僚や政治家を誘導。
全国の地図から、具体的な場所を決めるか・・・。

人と資源、お金が循環する仕組みを実験的に創設する「大きなエリア」。

⇒ 仕組み（制度やインフラ）を見せるエリア

21世紀の新しい姿を思い切って見せる「小さなエリア」。

⇒ 姿を見せるエリア

⑤新しい時代の扉：起爆剤（回天の原動力）で、人が集まる、金が集まる、人が走る

求心力と波及効果の高い「起爆剤」が必要。

蓄財に焦点を当てながら、未来を感じさせる先進性。

伝統的な素晴らしさと、挑戦的な実験の組み合わせ。

この時代の最高の人と技術と思想の結集・・・そのための「空気」を作る。

・ステップ①政治経済の行き詰まり（機能停止）

・ステップ②民主導の総決起集会

民間主体で結集（関係者をすべて集めた総決起集会を行い、全体として動き始める）

・ステップ③集まった仲間たちと、新しい日本づくり、国家像について議論

すごい事例をみんなで見に行こう。アニメでも見せよう。

・ステップ④そして、新しい国づくりへ

具体的に動くところから始める（新しいまちを創るか、既存のまちを再整備するか）。